

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成30年度 第3回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	平成30年9月26日（水）19：00～20：00
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 第2回在宅ケア便利帳部会の報告について 2 退院支援・医療介護連携部会及び医療介護連携ミーティングの報告について 3 第1回在宅医療コーディネーター養成研修会の報告について 4 高松市在宅医療支援センターの設置について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	17人
	吉澤委員長、大原職務代理、青木委員、井下委員、大橋委員、長内委員、片山委員、多田委員、永岡委員、林委員、坂東委員、古川委員、松木委員、松本委員、三橋委員、三宅委員、和田委員
関係者	市医師会事務局（2人） その他：医師会（伊藤副会長）、県随員（1人）
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進室 839-2345 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健対策課 地域医療対策室 839-3805

協議経過及び協議結果

1 第2回在宅ケア便利帳部会の報告について(資料1)

○A委員から報告がある。

(委員長) もうデータの更新作業はもう始まっているのですか。

(事務局) 部会の委員さんに今あるデータを確認してもらい案内を準備しているところです。

(委員長) 廃止したところと、新規が難しいと思いますので。

(事務局) 10月中にそれらを収集し、取りまとめて11月の会議までに状況を伝えたいと思います。

(委員長) スマホ版の便利なびはバグが多いので、業者の方に言ってもらえませんか。地域を選んで検索をかけても高松市全体がでる等、おかしいところがあります。

SNSサービスについては何かありますか。

(A委員) 業者に成功事例の説明とお話しをお願いしたのですが、なかなか難しいようです。

(委員長) 導入を検討している業者はベンチャーで、スタッフがあまりいないため、なかなか派遣できない。今度11月のミーティングに来ていただけるようお願いしたので

すが、なかなか難しいかもしれません。

2 退院支援・医療介護連携部会及び医療介護連携ミーティングの報告について(資料2、2-1)

○B委員から報告がある。

→質問なし

3 第1回在宅医療コーディネーター養成研修会の報告について(資料3)

○C委員から報告がある。

(A委員) 40名の参加ということですが、今年度何名募集があつて40名になったのか、選定方法を知りたいです。

(委員長) 今年度の応募は、75人です。抽選になるのですが、選定の前に1人の推薦者が何人も推薦しているところは1人にしてもらったり、できるだけ幅広く受講できるようにしています。

(A委員) 2年連続で落ちた人や、2年連続で当選した人もいるようですが。

(委員長) 募集資格の条件で、何らかの資格をもっている人となります。

(A委員) 推薦人が複数いるのなら、受付の時点で削除していただかないと。選定に透明性をもっていただきたい。

(委員長) 一人が複数推薦している人はどの人を優先していいか分からないものや、1つの施設から複数のドクターが複数の人を推薦していたり、応募状況を調べてみないと、結局、同じ人ということもあります。受付段階で1人1施設1推薦人というふうに絞り込むのはなかなか難しいです。今後の検討課題でもありますので、改善していきたいと思います。

(A委員) 手順は明らかにし、ルールをきちんとしてください。

(委員長) わかりました。また、このコーディネーター養成をいつまで続けていくかですが、これは100%基金でしております。基金の方は年々減額されていく傾向もありますので、そのへんの動向もありますが、できるだけ続けていければと思います。

4 高松市在宅医療支援センターの設置について(資料4)

○事務局より在宅医療支援センターのチラシについて説明がある。

(C委員) 基本的に各部署で動いていて、なかなか患者さんの流れが見えてこない。地域連携室の方では、退院した後その方がどの様に過ごしているのか等をみてもらいたいというのがありますが、なかなかそのあたりが繋がってっていない。そういうことを含めて地域で何が起きているのか、例えば高齢者でマンションを買おうとしても、証人が付かないと財産を持っていてもマンションに入れなとか、認知症で暗証番号が押せないから部屋からでられないとか。そういう地域の現状をピックアップして、行政と医師会の皆さんで共有して、地域で何が必要なのかを整理していけるような環境を作っていただければありがたいと思います。

(委員長) 地域包括支援センターが介護保険側の相談窓口ならば、在宅医療支援センターは医療面での相談窓口になって、地域包括支援センターと同じくらいの大きさになればいいと思います。それが両立して医療介護の連携がより進むのかと思います。

今は市役所の中に入れて頂きまして、将来的に3年後くらいには高松市みんなの病院の北側にできる、仏生山エリアの総合センターの中の一つの部署として、もう少し大きくなって、できれば人員も増やして、そこで活躍できればいいと思っています。この在宅医療支援センターにつきましては、高松市医師会も全面的にバックアップしながら、在宅医療ネットワークと一緒にあって、在宅医療難民をなくし、在宅医療そのものの啓発活動等、在宅医療の分野で、地域包括ケアシステムを支えていくようになります。

(医師会事務局) 在宅医療支援センターの方には医師とコーディネーターの仲介役としてほしいので、色んな会議にでていただきたい。顔を見える機会を是非作ってください。

(委員長) 分かりました。採用はこの次の会からになりますが、それ以降はどんどん出てきていただければと思います。

(B委員) 親会議、部会、連携ミーティング等は、休みの日や時間外にもあるのですが、一緒に参加して企画とかを考えたりして進めていくという形で考えていけばよいのでしょうか。

(事務局) 基本的には参加する方向となっております。

(B委員) 連携ミーティングの方では、参加者の方ではなく、企画や準備を一緒にする側という形でいいのですね。

(事務局) そうです。

(委員長)他に何か議題以外で質問はありませんか？

(C委員) 10月6日に国立長寿医療研究センターでACPを日本で引っ張っている先生を講師に招き、グループワーク形式での養成研修会を予定しています。今日時点で募集は締め切らせていただいているのですが、もしご希望があればお声をかけていただければと思います。

【次回の日程】

平成30年度第4回高松市在宅医療介護連携推進会議を、平成30年11月28日(水)
19:00～高松市医師会館にて開催することとなる。